

第650回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 有明海沿岸道路（佐賀福富道路）整備事業【六角川大橋】…………… 小城市芦刈町～杵島郡白石町

- ・佐賀福富道路は、（仮）佐賀JCTから福富ICまでの約10.5km間の自動車専用道路で、有明海沿岸地域の都市と九州佐賀国際空港や三池港といった交通拠点との連携を強化する地域高規格道路である有明海沿岸道路の一部を構成。
- ・六角川を渡河する六角川大橋は全長982mで、渡河部が鋼4径間連続鋼床版箱桁橋、陸橋部が連続非合成鈑桁橋。
- ・有明海沿岸地域は日本有数の軟弱粘性土が相当の厚さ堆積しているため、地盤改良工法等について「佐賀県地域高規格道路軟弱地盤対策工法技術検討委員会を設置し検討。
- ・盛土の沈下対策について、具体的な工法としては、深層混合処理工法と一部に浅層混合処理工法を採用。
- ・盛土については、可能な限り建設発生土を用いてコスト削減を図り、橋台背面においては側方流動対策のため、気泡混合軽量土を採用。
- ・佐賀福富道路を含む有明海沿岸道路の整備については、有明海沿岸地域との広域的な交流促進による地域の発展や、九州佐賀国際空港の利用促進、集客圏域拡大に伴う観光振興等が期待されるとともに、災害発生時の緊急輸送道路として重要な道路である。



2 唐津港（東港地区）整備事業

…………… 唐津市東大島町

- ・唐津港が将来にわたって重要な役割を担っていく上での課題としては、既存港湾施設の維持管理や狭隘な埠頭用地の解消に加え、クルーズ船受け入れ環境の改善、震災等発生時の海上輸送ルート確保等があった。
- ・特に東港地区では、飛砂による周辺環境への影響回避や老朽化が著しい既存岸壁の改良など機能再生を伴う一体的な埠頭再整備が望まれていた。
- ・これらの課題や要請に対し東港地区の既存岸壁は、内貿ユニットロード及び緊急物資輸送に対応した水深9mの耐震強化岸壁へ改良するとともに、航路泊地の拡幅・増深、埠頭用地の再整備を行うこととなった。
- ・耐震強化岸壁には現地工事の効率化を図るため「格点式ストラット工法」を採用し、車止めは荷役作業や景観に配慮して設置している。本岸壁は平成28年4月に暫定水深7.4mで供用開始しており、現在は航路泊地の浚渫を進めている。また、周辺では快適で潤いのある緑地や統一的な景観形成に配慮した建築物の整備も行われている。



3 国営吉野ヶ里歴史公園整備事業

…………… 神崎市～神埼郡吉野ヶ里町

- ・国営吉野ヶ里歴史公園は、我が国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るため設置された国営公園。
- ・佐賀県神崎市、神埼郡吉野ヶ里町にまたがる丘陵地にあり、面積は約54ha。
- ・公園の周囲には、遺跡の環境保全及び歴史公園としての機能の充実を図るために約63haの県立公園が整備。
- ・総面積約117haの区域が一体的な歴史公園として整備され、整備の基本理念として、吉野ヶ里遺跡の保存を通じての本物へのこだわりと、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示等の遺跡の活用を通じて、弥生時代を体感できる場を創出することとし、もって日本はもとより世界への情報発信の拠点している。
- ・現在は園内施設の維持補修を実施。

